

ランチョンセミナー6

演題名	救急診療における、エコーに自信がない医療者のためのエコー
-----	------------------------------

概要

超音波検査は、①非侵襲的で、②救急室から移動することなくベッドサイドで施行でき、③繰り返し評価が可能であるという利点がある。一方、担当者の技術により評価に差が出やすく、超音波検査に自信がない医師にとってはハードルが高い。FAST は、救急現場において、そのハードルを低くするきっかけとなった。FAST とは、Focused assessment with sonography for trauma の略号で、外傷初期診療におけるショックの原因検索の方法である。心窩部、両側胸部、恥骨上部の4か所のみプローブを当て、心嚢内・腹腔内の液体貯留（出血）を評価する。評価項目を限定することによって迅速な検査を可能にするとともに、超音波検査に自信がない医師に対しても積極的な使用を促した。その後、FAST は両側胸部からの胸腔内液体貯留（出血）の評価を加えた6点評価として外傷初期診療講習会で指導されている。現在では、FAST に気胸の評価を加えたEFAST（Extended FAST）や、外傷に限らないショックの鑑別診断のため、心収縮や脈管についてもポイントを絞って評価を加える RUSH（Rapid Ultrasound in SHock）も提唱されている。いずれも、「習うより慣れよ」と、評価項目を絞り検査のハードルを下げるのが共通の概念であり、在宅診療の現場でもその有用性が期待される。